

宮城・長徳寺前遺跡  
ちやうとくじまえ

- 1 所在地 宮城県岩沼市長岡字塚腰
- 2 調査期間 二〇〇三年(平15)二月～三月
- 3 発掘機関 岩沼市教育委員会
- 4 調査担当者 川又隆央
- 5 遺跡の種類 寺院跡・礫石経塚
- 6 遺跡の年代 近世
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(岩 沼)

長徳寺前遺跡は、高館丘陵より東西方向に派生する標高三〇～五〇mほどの低位丘陵である長岡丘陵南東裾部に位置する。二〇〇三年二月の下水道管理設工事の際に多量の礫石経が出土し、同年五月をもって遺跡地として登録した。礫石経塚は二基であるが、上部構造は削平により不明である。礫石経を埋納した土坑の平面形状は、一号経塚が円形、二号経塚は方形を呈する。

二基の経塚ともほぼ垂直に掘り込まれている。また礫石経は、二基の経塚とも掘り込みの底面に厚さ四〇～六〇cmにわたって敷き詰められた状態で出土しており、その直上は有機質の植物遺体によって覆われていた。

出土した礫石経の総数は、一号経塚で一四八九七点、二号経塚で一四五二点を数える。このうち肉眼で文字が判読できる礫石経は、一号経塚で一〇〇八九点、二号経塚で六三二六点ある。両経塚での使用文字の相違が顕著であることから、異なった経典を写経している可能性がある。木簡は、一号経塚から一点出土した。出土層位は不明である。

8 木簡の釈文・内容

(1) 「一之巻□□之内」

178×41×7 011

(1)は柁目材で左側縁は割截。右側縁は切断。写経した経典名を記したもののか。



(川又隆央)